



啓明小だより

中野区立啓明小学校

校長 鈴木 栄子

〒165-0034 東京都中野区大和町 1-18-1

電話 03-3330-2325 FAX03-3330-2326

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/nk-keimei-e/>

No. 514 号 5月号 発行 平成29年4月28日

カラスとウサギ 太陽と月

校長 鈴木 栄子

校庭の緑がぐんと深くなり、初夏の訪れを感じます。新しい学年・学級になったとき、子供たちは一人ひとり今年の抱負をもち、「何を頑張るか」「今年は何ができるようになるか」等を考えました。そして、はじめの一か月が瞬間に過ぎていきました。

さて、「ウサギとカメ」ではなく、「カラスとウサギ」です。カラスは黒い色をしていて東京の空を我が物顔に飛び交っています。ウサギはどこにでもいそうな動物ですが、さすがにあちこちにいるとは言えません。今回は、黒いカラスではなくて、金色のカラスと、玉のようなウサギの話です。

中国の伝説では、明るく輝く太陽の中に、金色のカラスがいると言われていました。しかも足は3本、と言うのですからおとぎ話ですね。金色のカラス「金烏（きんう）」は、太陽の別名なのです。一方、月には、玉のようなウサギが住むと言われていました。玉のようなウサギ「玉兎（ぎょくと）」は、月の別名です。太陽が毎日忙しく東から昇っては西に沈み、月が刻々と動いていく様子から、「金烏急玉兎速 『金烏（きんう）急にして玉兎（ぎょくと）速し』』という、禅の言葉となりました。「月日の経つのはとても早い」、さらに「変化の急な様子」を表しています。

学級・学年開きから一か月。子供たちは入学・進級の喜びと共に緊張した日々を過ごしました。同じように繰り返される毎日ですが、どれをとっても同じ一日はありません。座席が決まった日、自己紹介をした日、係や当番活動が決まった日、高学年では委員会活動も始まりました。はじめの頃は昇降口や教室が新しくなって戸惑いがちだった子供たちもひと月経つうちに、自分の学年がずっと前からそこにあっただけのように慣れ親しんできました。6年生は、1年生のお世話と挨拶当番を実によく頑張っています。月曜朝会でのあいさつや返事は、他のどの学年にも素晴らしい手本となっています。一見、同じような毎日に思われがちですが、変化の激しい毎日を過ごしながら子供たちは学校で成長していきます。とりわけ、新学年の始まったこの時期の変化は実に急です。目に見える変化もさることながら、子供たちの心の成長や活動の仕方など、一見にして分かりにくい部分の変化も急です。そんな中でしっかりと子供たちは地に足を付けて育っていきます。

そんな4月が過ぎていき、さわやかな5月を迎えました。変化の急な毎日を過ごして、5月はさわやかなのにどことなく疲れを覚える頃でもあります。今年の5月ゴールデンウィーク、楽しみでもありますが、どうか無理のない計画で過ごされますように。連休明け、子供たちには「ぐりぐら図書館春まつり」「運動会」「移動教室準備」と、活躍の場面が目白押しです。生活リズムを大切にして、「早寝早起き朝ごはん」を合言葉に、大人も子供もさわやかな5月を過ごしたいと思います。

5月の生活目標

「きまりをまもろう」

生活指導部 佐藤 聡美

社会には、様々なきまりがあります。きまりがあることで、人々の健康や安全が守られたり、みんなが気持ちよく、安心して生活することができたりします。家庭や学校、地域は、子供たちが小さい頃から、規範意識を育てていくことが大切です。

「誰かが見ているから」「先生に怒られるから」という動機づけでは、本当の意味できまりをまもる行動にはつながりません。きまりをまもらないと、どのようなことになるのかを考え、たとえ面倒なことでも、自分や周りの人たちのために思いやりの心をもって行動できるように指導していきます。そして大人が率先して、模範になる行動をすることが重要だと思います。ご家庭でも、きまりやルールを改めて考えてみてください。